

NiiGATA

生涯学習にいがた

No. 33
2003.3



「にいがた連携公開講座」 2002から

この講座は、テレビ会議システムを利用して複数の受信会場へ配信するものです。

今年度は7月14日の羽茂町公民館を皮切りに、12月14日の最終講座まで10会場で19講座を開催し、延べ1,175名の皆さんから受講いただきました。

コラム

奉仕活動・体験活動の充実を目指して

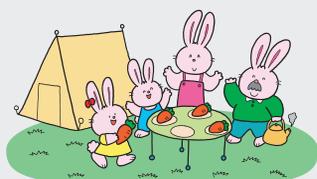
県立生涯学習推進センター

学習振興課長 五井 勇二

社会教育法・学校教育法の改正や各種答申などにも見られるように、青少年の奉仕活動・体験活動の推進は、社会全体で取り組むべき大きな課題となっております。特に生きる力（自ら考え、行動する力・豊かな人間性・健康や体力など）を育むためには、体験活動等の充実が欠かせません。そのため、十四年度から都道府県と市町村（三年間計画）に体験活動・ボランティア活動等支援センターが設置されます。今年度、新潟県では生涯学習推進センター内に県の支援センターが、また、二九の市町村に市町村の支援センターが設置され活動を始めました。

県の支援センターには、専任のコーディネーター一名が配置され、体験活動等の情報提供や相談などの業務に当たっています。また、市町村の担当者やコーディネーターを対象とした研修会を二回開催しました。学校内外における体験活動等の推進を踏まえて、学校と社会教育がいかに協力していくかが、大きなテーマとなっております。今後も、学校・家庭・地域の連携は、大きな課題であると考えています。

どこの市町村に住んでいても、子どもたちが体験活動等に参加したいときに、参加できる活動の場を提供する体制づくりが重要です。そのため、これからも市町村との連携を密にして、体験活動等の充実を推進してまいります。



ラ・ラ・ネットで、「新潟県の文化財」と「新潟県の自然」の情報発信を始めました!



「新潟県の文化財」の情報について

県内には、国指定文化財が169件（国宝1件を含む）、県指定文化財が320件あります。それらの文化財は、県や市町村の宝物です。

今回、これらの文化財に関する情報をラ・ラ・ネットで見ることができるようになりました。ラ・ラ・ネットでは、解説や写真のほか、現地を訪れる際の交通手段や地図も掲載し、とても使いやすくなっています。ぜひご利用ください。

URL <http://www.lalanet.gr.jp>

「新潟県の自然」の情報について

新潟県は、全国的に知られた山や大河、海岸、そして4つの国立公園、2つの国定公園があります。これら豊かな自然に恵まれた県内各地の様子は、ラ・ラ・ネット「新潟県の自然」のページで見ることができます。

体験活動を実践する際の参考として、学校での地理の学習教材としてご利用ください。

URL <http://www.lalanet.gr.jp>



新着映像教材をご利用ください

《《《 地域や学校、PTA、各種学習会等でご利用できます。》》》



タイトル	規格	作品の概要
微笑みを抱きしめて	ビデオ 97分	小学校教師だった父親がガンで入院し、再び戻ることはなかった。残された家族への最後の贈り物は何か。勝野洋・宮崎淑子出演
With... ～若き女性美術作家の生涯～	ビデオ 60分	美術作家佐野由美さんがネパールの貧困地域の学校で美術教師として活躍する。苦しみながら成長していく彼女の姿をカメラが追う。
自転車 ～共同学童保育所つばさクラブ 北海道一周サイクリング～	ビデオ 30分	学童保育所の小学生が北海道一周旅行に挑戦し、励まし合いながら旅を続ける。自然体の子どもの姿、本音の語りをとらえる。
神の子たち (God's Children)	ビデオ 105分	マニラ近郊の巨大なゴミ捨て場「スモークーマウンテン」でゴミを糧としてたくましく生きる人々の姿を追うドキュメンタリー。
メール (MAIL)	ビデオ 54分	身に覚えのない中傷や同和地区出身のことをインターネットに書き込まれた女子高校生が、たくましく生きようとする姿を描く。
琴美の決意 ～差別なき未来に向かって～	ビデオ 37分	長野県の被差別部落出身の琴美さんは、両親も家族も猛反対の中で結婚。わが子のためにも決意し、その心の内を語り始める。
地域で育てる ～楽しい生涯学習～	ビデオ 19分	小平市の地域野球チームや世田谷の母親サッカーチームの活動等を例に、地域ぐるみで楽しみながら子育てをする様子を紹介する。
気づくことがはじめの一步 ～男女共同参画社会を築くために～	ビデオ 24分	若い二組の夫婦の生活を例に、固定的な役割分担意識から抜け出し男女共同参画社会を実現していくことの大切さを説く。
学習プログラムの立案	ビデオ 30分	国立教育政策研究所社会教育実践研究センターが、学習のプログラム立案について、その概要や立案までの流れを映像で説明する。
ユネスコ世界遺産シリーズ (36巻)	ビデオ 各40分	グラナダのアルハンブラ宮殿やローマの歴史地区、中国の万里の長城など、世界遺産に登録された全世界の遺跡を映像で紹介する。



制作した絵本とCD-ROM

を共感しながら、ジェンダーに敏感な意識をみがいてきました。
平成十年から「マミーズ講座」を開催しました。子育て中の悩みを気楽に語り合う場や、子どもを預けてリフレッシュできる場として定着し、今では「マミ講」と呼ばれるほど親しまれています。
活動継続のための資金に悩んでいたところ、平成十二年、文部省（当時）が「0才からのジェンダー教育推進事業」の委嘱団体を募集していることを知り、「ジェンダーフリー・わいわいフォーラム実行委員会」を結成しました。県の推薦をいただき、国からの委嘱（委託）を受けて、平成十四年までの三年間、活動を拡充、継続して今に至っています。
マミーズ・ネットのメンバーが核となつていますが、他の活動グループ、上越教育大学、県立看護大学や助産師、保育士など、いろんな分野の方々が実行委員に加わってくださったおかげで、幅広い活動ができるようになりました。
これまでのマミーズ講座やフォーラムに加えて、両親講座、マタニティサポーター研修会、子育て出前講座な

ど、私たちの求めるメッセージがふんだんに盛り込まれたプログラムを展開しています。
また、私たちの思いを子どもたちへ伝える教材として「いろんななかぞくいろんなおうち」と題した絵本とCD-ROMを制作しました。これをもって各地のワークショップや出前講座に出ています。
平成十三年度から、講座に参加できない人たちとも共感できる場としてホームページを開設しています。今年度はマンガ版テキストを製作中です。
これからもジェンダーにとらわれない世の中になることをめざして活動していきたいと思えます。
事務局 上石 喜代子

「支援される側から
する側へ」
新潟市坂井輪地区公民館
の家庭教育学級事業を紹介します。



家庭教育学級の企画委員として

得たもの

私自身が公民館主催の家庭教育学級に参加したきっかけは、今中二の長男が三歳のころ、近所に子育てを話し合う友達もいなく、家では、嫁であり母である私が子どもの成長をすべて譜け



家庭教育学級参加者の感想文集
(坂井輪地区公民館)

負っているという感覚で悶々としていた時に見た公民館の「生き生き子育てセミナー」のチラシだったと思います。単純にいい子育てを教えてもらえらると思つて参加したのですが、十回の内容の中には直接的なハウツウは少なく、子育ては私自身が育つことだということ、子ども自身は私ではないということなど、今まで考えたことのないものを教えていただきました。またそこで、なくてはならない私の大切な友人とも出会いました。子どもの成長に合わせ公民館での家庭教育学級を受講することによって、私たち親子の育ちにより刺激をたくさん与えていただきました。

子どもの成長を社会全体で
支え、喜び合ひましょう。



今回企画委員のお誘いをいただき、今までたくさんいただいたものに何かしらお返しができればと思ひ引き受けました。企画委員として感じたことは、子育ての悩みは私が抱えていたところと変わらないものも多く、ちよつと先輩の話をきくだけで落ち着き、解決されることもたくさんあるということ。また、子どもを取り巻く状況が大きく変わつてきていて学校からのお手紙だけでは深くわからなく、それについて話し合う人が周りにいないということ。だから、とても心配になつてしまつた。私たちが企画委員は、今自分たちが抱えている問題は個人の問題だけではなく、みんなの問題であるということを取り上げ、受講生と一緒に講師の先生と学び合ひました。そして、私は年代の少し若い人たちと話すことによって、自分にとっては当たり前だと思つていたことがそうではないこともあり、新しい価値観と出合ふことができました。また、この講座をきっかけに、私たちの自主サークルに若い仲間が増え、地域での子育ての輪が広がりました。このように、これからもたくさんの人たちとかかわりながら地域で暮らしていきたいと思ひます。
企画委員 郷 扶二子

「社会の宝」として子どもを育てよう！

— 家庭教育支援の充実をめざした県と市町村の取組について —

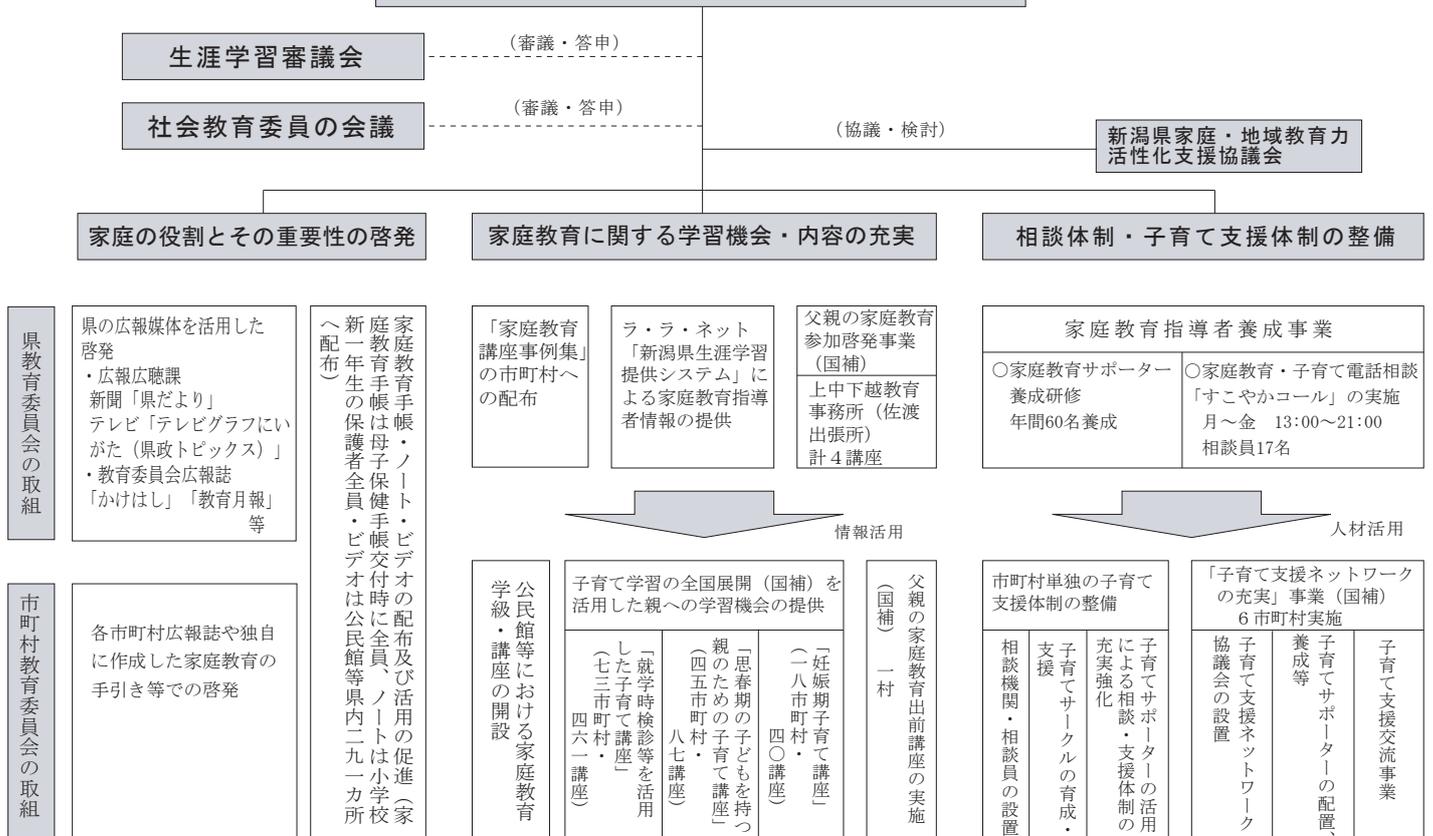
家庭での教育やしつけに対する支援がいろいろと行われているけれど、県や市町村ではどんな取り組みをしているのでしょうか。？



県教育委員会では平成14年度、下のような体系で家庭教育支援の取組を進めています。



家庭教育支援に関する事業



再調査もして内容を検討しながら年一〜二回のペースで県内外で公演をしています。劇をするだけでなく、参加者とグループトークの時間を必ず持ち、悩み



県立生涯学習推進センターの研修会で実践を発表

「ジェンダーフリー・わいわいフォーラム実行委員会」の前身は「ママーズ・ネット」です。子育て中の母親たちが自主的に集まり、平成八年から一貫して自立した活動を続けている民間団体です。

上越市内の母親のアンケートを基に子育てに悩む母親の姿を「ゲキ白！子育て」の劇に仕立てて上演しました。この共感と反響が私たちのジェンダー(社会的・文化的につくられた性差)の気付きと社会活動の一步となりました。その後

わいわいフォーラム実行委員会の活動について

ジェンダーに敏感な視点に立った、上越市の子育て支援事業の紹介です。この事業は国からの助成を受け、全国からも注目されています。

